

2024 年度 卒業年次生アンケート

大学事務部 学事企画課

1. 概要

- (1) 実施日：2025 年 3 月 7 日（金）
- (2) 対象者：2024 年度卒業年次生 887 名
→卒業延期や在学期間延長等の理由により、2025 年度も在籍する学生は除いた卒業確定者の人数。
- (3) 回収したアンケート数：634 件（回収率：71.5%）
→うち、回答が全く記入されていない 21 件は無効として、集計から除外。
- (4) 集計対象としたアンケート数：613 件（有効回答率：69.1%）

【図表 1】2024 年度卒業年次生アンケート回収状況

	対象者	回収	未回収	回収率
日本語日本文学科	91	61	30	67.0%
英語文化コミュニケーション学科	71	46	25	64.8%
子ども教育学科	101	51	50	50.5%
メディア情報学科	109	86	23	78.9%
生活デザイン学科	64	48	16	75.0%
小計《学芸学部》	436	292	144	67.0%
社会マネジメント学科	116	74	42	63.8%
人間心理学科	105	74	31	70.5%
小計《人間社会学部》	221	148	73	67.0%
健康栄養学科	82	72	10	87.8%
管理栄養学科	90	66	24	73.3%
小計《栄養科学部》	172	138	34	80.2%
計《大学》	829	578	251	69.7%
食物栄養学科	58	35	23	60.3%
計《短期大学部》	58	35	23	60.3%
回答なし	—	21	—	—
アンケート回収数	887	634	253	71.5%
集計対象とするアンケート数		613	—	69.1%

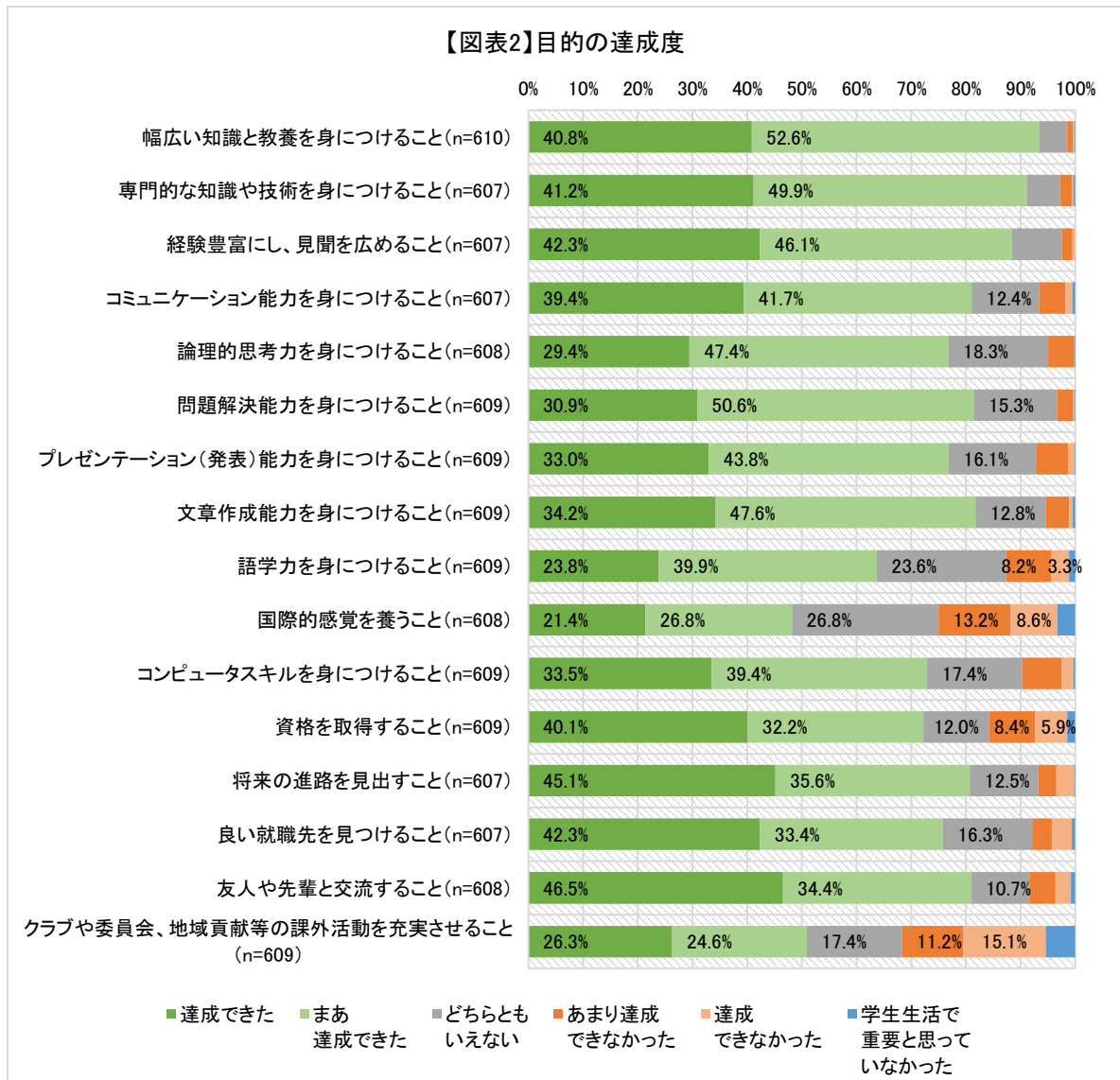
【参考】春学期卒業者を加えた 2024 年度全卒業者数から見た回収率（有効回答率）は以下のとおり。

大学 … 卒業者数：832 名 回収率（有効回答率）：69.5%

短期大学部 … 卒業者数：58 名 回収率（有効回答率）：60.3%

2. 各項目の分析

(1) 目的の達成度について

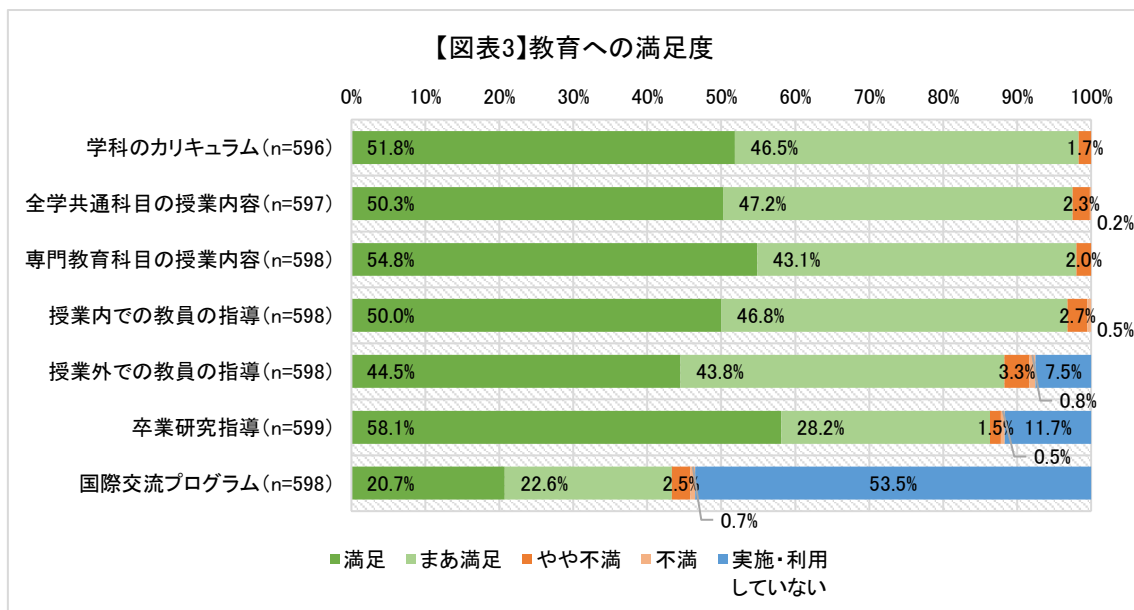


※肯定回答以外は、1割を超えるもの（否定回答は合算で）のみ割合を掲載。

- 回答した学生の9割以上が、本学での学生生活を通じて「幅広い知識と教養」や「専門的な知識や技術」を身につけられたと感じている。また、「経験豊富にし、見聞を広める」ことができたと感じている学生も88.4%と9割近くに達している。
- 身についた能力として、「コミュニケーション能力(81.1%)」「問題解決能力(81.5%)」「文章作成能力(81.8%)」を挙げる学生が多かった。
- 自身の将来について、8割以上の学生が「将来の進路」を見出すことができたとし、「良い就職先」を見つけたことができた学生も75.7%で7割を大きく超えている。
- 学修以外の大学生活について、8割以上の学生が「友人や先輩と交流する」ことができたとしている。
- 各項目の達成感を前年度と比較すると、「クラブや委員会、地域貢献等の課外活動の充

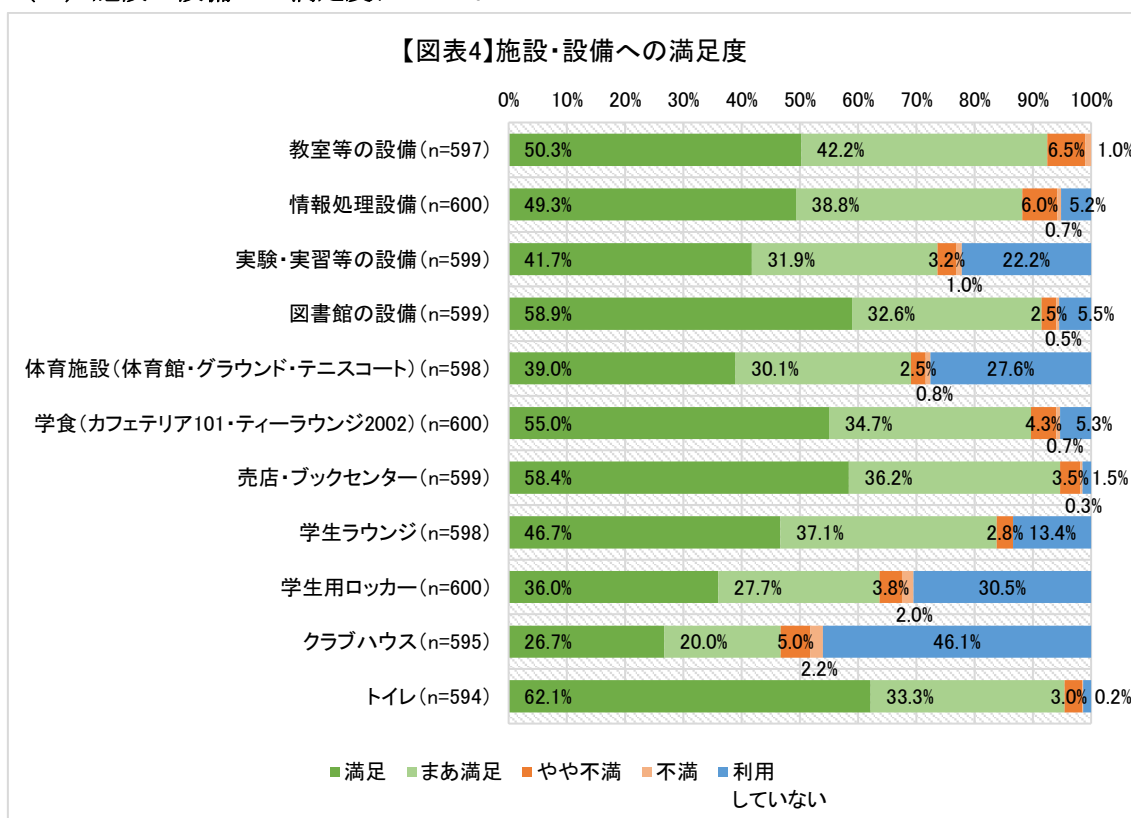
実」が 8.3 ポイント、「友人や先輩との交流」が 7.8 ポイント、「問題解決能力の習得」が 7.2 ポイント増加しているほか、「幅広い知識と教養」「論理的思考力」「文章作成能力」「語学力」の習得についても 5 ポイント以上増加した。

(2) 教育への満足度について



- すべての項目で、「やや不満」「不満」と回答した学生が 5%未満であり、本学で受けた教育に対する学生の満足度は総じて高い。なお、実施・利用していない学生を除いたとしても、不満を感じている学生が 1 割を超えることはなかった。
- 「授業外での教員の指導」と「国際交流プログラム」以外は、半数以上の学生が「満足」と回答している。なお、実施・利用していない学生を除くと、「授業外での教員の指導」は 48.1%、「国際交流プログラム」は 44.6%の学生が「満足」と回答したことになる。
- 「卒業研究指導」は、「満足」と回答した学生が 58.1%と最も多い。なお、実施・利用していないと回答した学生のうち、約 9 割は卒業研究を必修としていない栄養系 3 学科（健康栄養・管理栄養・食物栄養）の学生が占めている。
- 回答した学生の半数以上は、「国際交流プログラム」を実施・利用していない。
- 各項目の満足度を前年度と比較すると、「満足」「まあ満足」の合計値では 5 ポイント以上の変化は見られなかったが、「満足」のみでは「全学共通科目の授業内容」が 10.8 ポイント増加しているのを筆頭に、すべての項目で 5 ポイント以上の増加が見られた。

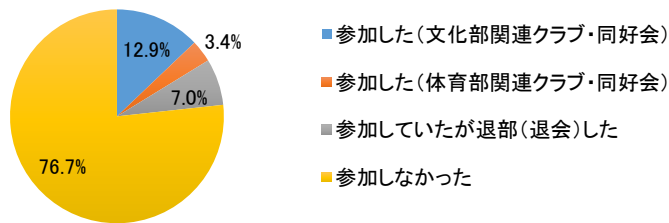
(3) 施設・設備への満足度について



- どの施設も、不満感を抱いている学生は1割未満と少ない。
- 「教室等の設備」「図書館の設備」「学食」「売店・ブックセンター」「トイレ」は、半数以上の学生が「満足」と回答している。また、それ以外の施設・設備についても、利用していない学生を除くと「満足」と回答した学生が5割を超える、もしくは5割に限りなく近い結果であり、高い満足感が得られる施設・設備が多かったと言える。
- 各項目の満足度を前年度と比較すると、「満足」「まあ満足」の合計値では、「クラブハウス (+10.2 ポイント)」「体育施設 (+10.0 ポイント)」「学生用ロッカー (+9.1 ポイント)」の3つの施設・設備で5ポイント以上の増加が見られた。「満足」のみで見ると、すべての施設・設備で5ポイント以上増加しており、「教室等の設備」「情報処理設備」「学食」「売店・ブックセンター」「学生用ロッカー」「クラブハウス」は10ポイント以上増加した。

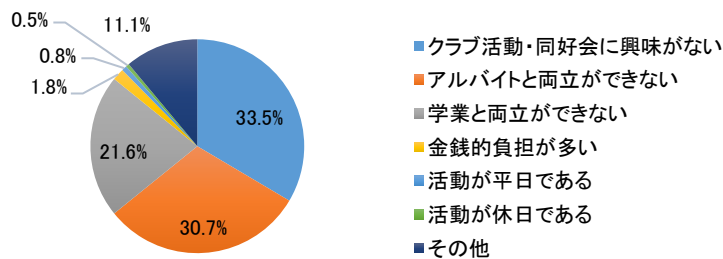
(4) クラブ・同好会について

【図表5】クラブ活動・同好会に参加しましたか？(n=597)



- クラブ活動や同好会には、23.3%の学生が「参加」した（退部・退会した者も含む）。参加率は前年度とほぼ変わりなく、体育系より文化系のクラブに参加する学生が多いという傾向も前年度までと変わらない。

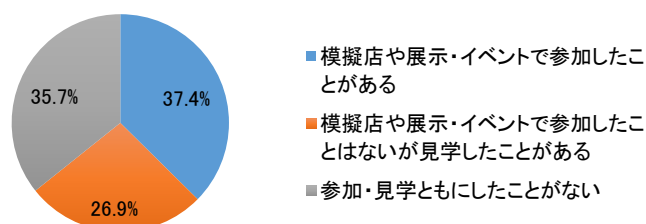
【図表6】参加しなかった理由(1つのみ) (n=388)



- 「参加しなかった」とした 458 名のうち、この設問に回答した学生は 388 名 (84.7%)。
- 例年同様、「クラブ活動・同好会に興味がない」「アルバイトと両立できない」「学業と両立できない」を理由とする学生が多く、回答全体の 8 割以上 (85.8%) を占める。
- 「その他」と回答した学生 43 名 (11.1%)。このうち、15 名の学生が具体的な理由を記述しており、その約半数の 7 名がコロナ禍であったことを理由としている。その他には、委員会やボランティア、学外活動などクラブ以外の活動に取り組んでいたという回答が複数見られた。

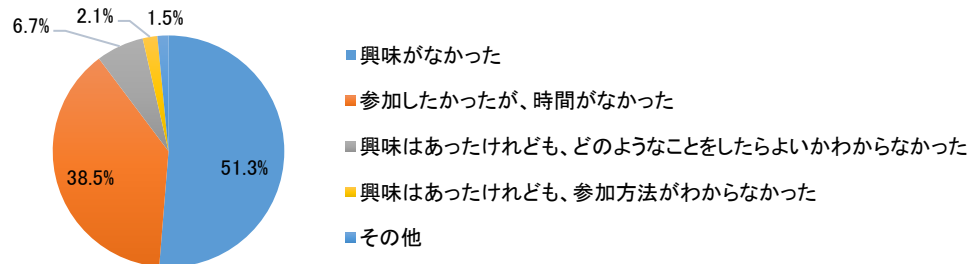
(5) 相生祭について

【図表7】相生祭に参加したことはありますか？(n=599)



- 「参加」もしくは「見学」したことがある学生は 64.3%で、前年度の 51.3%から 13 ポイント増加して 2021 年度 (65.6%) や 2022 年度 (63.0%) と同程度にまで回復した。また、「参加」した学生に絞っても、前年度から約 10 ポイント増加し (27.3%→37.4%)、こちらも 2022 年度の 37.7%とほぼ同程度の結果となった。

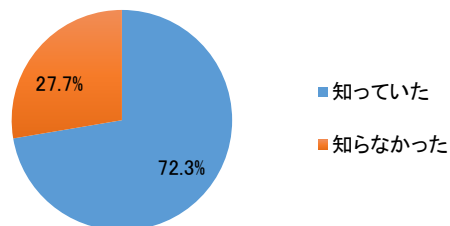
【図表8】参加・見学ともにしたことがない理由(1つのみ) (n=195)



- 「参加・見学ともにしたことがない」とした 214 名のうち、この設問に回答した学生は 195 名 (91.1%)。
- 今年度は、「参加したかった」「興味はあった」と回答した学生が 47.3%と例年より 1 割程度多く、「相生祭に興味はなかった」と回答した学生 (51.3%) とほぼ半々という結果であった。その内訳をみると、「参加したかったが、時間がなかった」と回答した学生の割合が、前年度の 23.0%から +15.5 ポイントと大きく増加している。

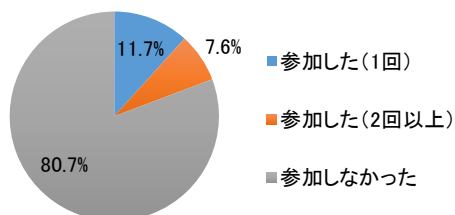
(6) 社会貢献活動について

【図表9】社会貢献活動を行っていることを知っていましたか？ (n=575)

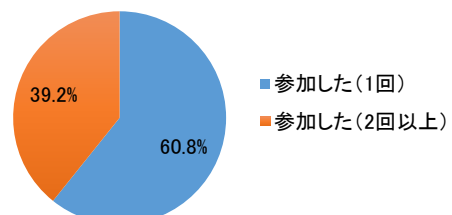


- 本学が社会貢献活動を行っていることを、7 割以上の学生が認知している。直近 3 年間は 74.2%→71.9%→72.3%と同程度で推移しており、認知度の低下は見られない。

【図表10】社会貢献活動に参加しましたか？ (n=410)



【図表11】参加者のうち、2回以上参加した学生(リピーター)の占める割合 (n=79)



- 「知っていた」とした 416 名のうち、この設問に回答した学生は 410 名 (98.6%)。

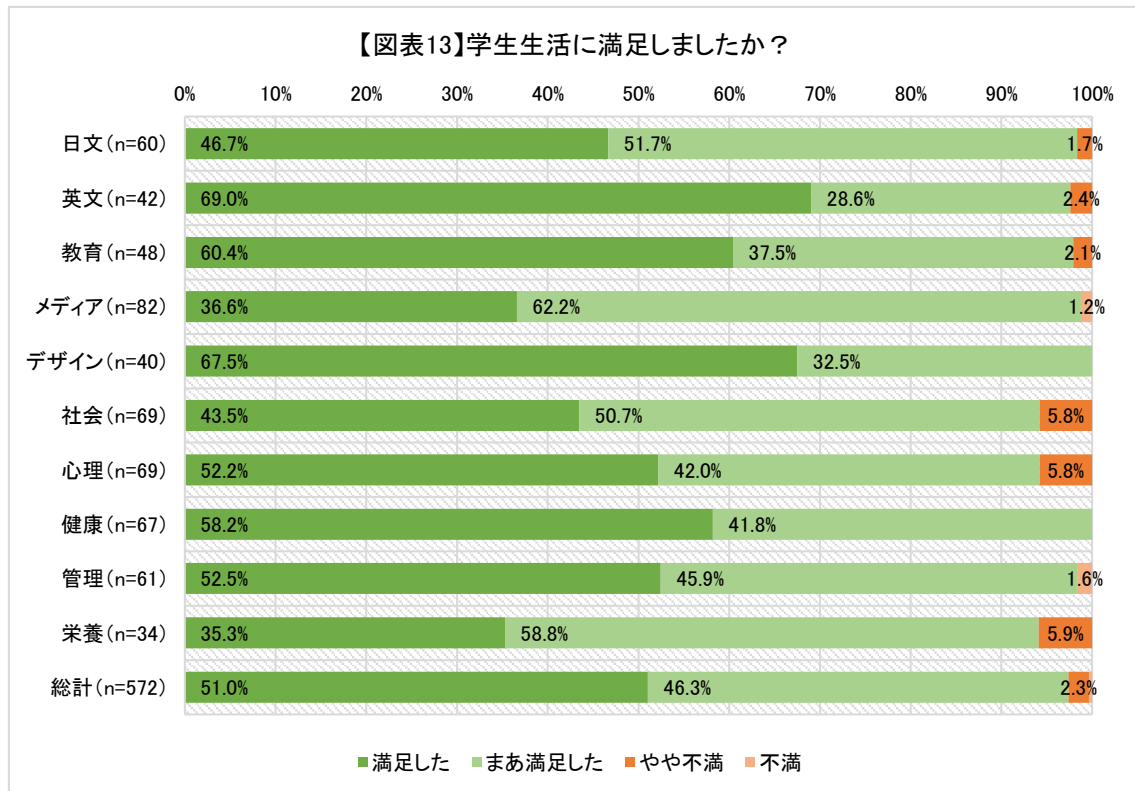
- 1 回のみの参加が 11.7%、2 回以上の参加が 7.6%、トータルで 19.3%の学生が社会貢献活動に「参加した」と回答しており、リピート率は 39.2%（31 名／79 名）となっている。前年度から、参加状況に大きな変化は見られなかった。

【図表 12】参加しなかった理由（複数回答可）

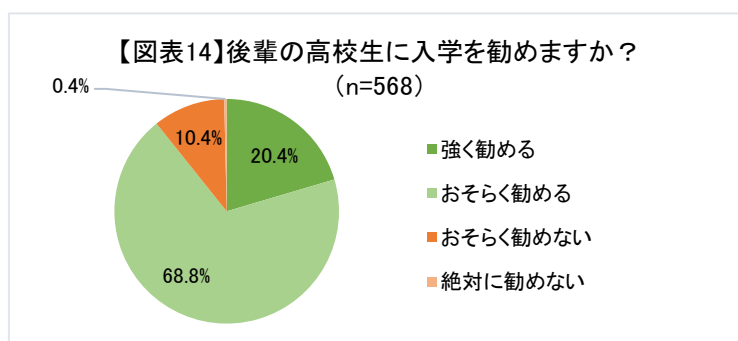
回答	件数
①物理的阻害要因	180
日程が合わなかった(100)／お金がかかりそうだった(34)／活動場所が遠かった(30)／活動期間が長かった(16)	
②参加への不安感	101
一人で参加するのが不安だった(49)／一緒に参加する友達がいなかった(34)／泊まりがけになることが不安だった(18)	
③活動への知識・理解不足	51
活動内容がよくわからなかった(44)／活動を通じて何が学べるのかわからなかった(7)	
④関心がなかった	85
⑤その他	9

- 「参加しなかった」とした 426 名のうち、この設問に回答した学生は 331 名（87.6%）。
- 理由を大括りにまとめると、「物理的阻害要因」「参加への不安感」「活動への知識・理解不足」の順で件数が多く、回答傾向に例年との変化は見られなかった。
- 「その他」と回答した学生のうち、具体的な理由を記述した学生は 9 名で、学外での活動に取り組んでいることを理由とする学生が複数見られた。

(7) 学生生活を振り返って



- 回答した学生の半数以上が、本学での学生生活を「満足」だったと振り返っている。「まあ満足」まで含めた割合は 97.3%で、多くの学生が本学での学生生活で満足感が得られたと感じている。前年度と比較すると、「満足」「まあ満足」の合計は 4.3 ポイントの増加であったが、「満足」の割合が 16.2 ポイント増加しており、より強い満足感が得られていると言える。
- すべての学科で 9 割以上の学生が「満足」「まあ満足」と回答しており、6 つの学科では半数以上の学生が本学での学生生活を「満足」だったと振り返っている。今年度は「満足」の割合が大きく増加した学科が多く、6 つの学科で 10 ポイント以上、最も多い学科では 30 ポイント以上の増加が見られた。



- ほぼ 9 割の学生が、後輩の高校生に本学への入学を勧めると回答し、20.4%は「強く勧める」としている。

- 大学の9学科を見ると、6つの学科で9割以上、その他の学科も8割以上の学生が「強く勧める」「おそらく勧める」と回答している。また、6つの学科では「強く勧める」を選択した割合が10ポイント以上増加した。

以 上